



第8号

新川水と里たより

新川農林振興センター
農業農村整備広報・広聴連絡会
〒937-0863 魚津市新宿10-7
電話(0765)22-9137【指導課】

今後取り組むべき活性化策 〜土地改良区活性化研究会における検討結果〜

新川農林振興センターでは、土地改良区が将来にわたって地域の最前線で農業・農村の振興に貢献することが望ましいあり方や活性化策を検討・提案することを目的に本研究会を設置し、研究会を7回、講演会を2回開催しました。

土地改良区が取り組むべき活性化策

- ① 耕作者からの賦課金徴収・組合員を土地所有者から耕作者に変更
- ② 非農家からの協力的体制
- ③ 施設の維持管理に非農家からの協力(協力金、夫役)を得る
- ④ 農地・水・環境保全向上対策等への関与・施設の維持管理費削減のため

学校にヤギ先生登場

中山間地域と都市との交流



ヤギとふれあう児童たち

2月15日(火) 中山間地域の住民と市街地の子どもたちとの交流を目的に、小菅沼・ヤギの杜のメンバーと新川農林振興センターの企画により、

当日、魚津市立村木小学校へは、小菅沼で活躍しているヤギ3匹が訪れ、児童たちの熱狂的な歓迎を受けました。このヤギたちは、小菅沼の耕作地周辺で、草を食べてもらう傍ら、二ホンザルなどの追い払い効果を高めるために放牧されているのです。

このあと、5年生の授業では「小菅沼・ヤギの杜のりの秋物語」の人形劇を上演。代表児



人形劇を上映

【企画振興課】

「次は小菅沼で会いましょう!」とお互いの理解を深めた1日でした。

国土等の行政が検討すべき改善策

- ① 組合員に関する法改正
- ② 賦課金を安定徴収できるように、組合員の規定の改正を検討すべき
- ③ 維持管理費軽減のため
- ④ 維持管理費軽減のため
- ⑤ 維持管理費軽減のため

- ① 国土改良区に対する普及啓発
- ② 国土改良区の広報活動
- ③ 国土改良区との積極的な情報交換
- ④ 国土改良区運営マニュアルの作成
- ⑤ 国土改良区に技術的な指導・助言を行う相談員を設置

これからの農業農村整備に望むこと

若手職員に向けて

今年、新川農林振興センター管内の農業農村整備の先端事業を考えると、後半の意見交換会では「干し柿を作ってみよう」と、今度は、小菅沼へ行ってみたい」などの感想発表がありました。

「次は小菅沼で会いましょう!」とお互いの理解を深めた1日でした。

このあと、5年生の授業では「小菅沼・ヤギの杜のりの秋物語」の人形劇を上演。代表児

土地改良区紹介 布施川土地改良区

布施川土地改良区は、平成17年7月に黒部市内の2土地改良区(黒部市東布施、布施川沿岸)が合併して発足した、受益面積398㌖、組合員数793名の土地改良区です。

最後に、聴き取り調査等で本研究会に対するご協力をいただきました各土地改良区の役員の皆様へ深く感謝申し上げます。



研究会の様子

【指導課 計画班】

当地改良区は、魚津市と黒部市の境界を流れる布施川沿いの幅最大約1km、長さ約8.5kmの狭長な扇状地の中山間地から海岸の河口付近までを受益としています。

主な施設としては、12ヶ所に分散されていた取水施設を、昭和54年度から平成4年度に実施された原管かんがい排水事業

新規地区紹介 室田地区

室田地区は、今年度より、ため池等整備事業として着手しています。

本地区で改修する大平池は、地すべり防止区域頭部に位置し、室田地区の農地10㌖を受益としています。



水天宮と笠破頭首工

【事務員 若林悦子】

この大平池は、近年、老朽化による堤体の損傷や漏水が発生しており、また、平成19年3月に発生した能登沖地震以来、底樋からも著しい漏水や洪水吐の水路底にも亀裂が生じていることから、早急に施設の改修を行う必要があります。

今年度は詳細設計を行ない、来年度から工事に着手する予定です。

【農村整備課 水利防災班】



改修を待つ、大平池

編集後記

2月に発生したNZ地震では、県民の方が多数被災され、我々農業農村整備に携わるものとして、日頃からこのような時だから

問題となってきました。今後は、これらを解決出来る方策について模索を要します。先人達の英知を集めた新事業により、我々は現在豊かな生活文化を謳歌してこることができました。今後、受け継いだ遺産が目減りしないように次代に引継がねばなりません。

【指導課 飯田課長】

本誌を通して農業農村整備の必要性を今後も発信し続けたいと思います。

【大上】